

平成25年度 奈良市子ども読書活動推進委員会会議録

開催日時	平成25年11月8日（金）午後2時から3時30分まで	
開催場所	奈良市役所北棟6階第22会議室	
議 題	1 開会 2 委員紹介 3 委員長あいさつ 4 議事 (1) 「奈良市子ども読書活動推進計画－5年間（平成19年度～平成23年度）の成果と課題－（案）」の報告 (2) 今後の方針等について	
出席者	委 員	松川 利広委員長、福岡 義郎副委員長、花木 恵子委員、 畑野 秀夫委員、乾 尚浩委員、井上 長子委員、 松田 義秀委員、松本 修己委員、濱口 雄彦委員、 林 勝之委員、斧原 俊和委員、小山 一彦委員、 荒木 美久子委員、岡崎 利彦委員、川尻 ひとみ委員 協力者：小西 雅子氏 【計16人出席】 （井上 幸子委員、梅田 真寿美委員、嵯峨 伊佐子委員）
	事務局	西崎次長、柴田課長補佐、柴田、服部、中澤
開催形態	公開（傍聴人1人）	
決定事項	「奈良市子ども読書活動推進計画－5年間（平成19年度～平成23年度）の成果と課題－（案）」満場一致で認められ、「奈良市子ども読書活動推進計画－5年間（平成19年度～平成23年度）の成果と課題－」と決定した。	
担当課	教育総務部 生涯学習課、教育総務部 中央図書館 学校教育部 教育センター 教育支援課	
議事の内容		
<p>「奈良市子ども読書活動推進計画－5年間（平成19年度～平成23年度）の成果と課題－（案）」について、中央図書館長 林 勝之委員より、以下の資料を基に、5年間の報告と今後の方針について説明。</p> <p>① 奈良市子ども読書活動推進計画－5年間（平成19年度～平成23年度）の成果と課題－（案）</p> <p>② 資料編</p>		
〔質疑・意見の要旨〕		
委員長	時系列で、これからのことを分かりやすく示してもらった。続いて、報告を受けて各委員からそれぞれの立場からのご意見を伺わせていただくことにする。	
委員	全庁でいろいろな課などがつながって推進していくのは素晴らしい。奈良市の子どもたちの生活環境の変化も考えていかなければいけないように思う。今の図書館は子どもたちが自主的にやってくるようなことが少なくなっている。子どもの生活のありようの変化が関わっている。このような中	

で、子どもと読書をつなぐということはどうすればいいかまでを考えて取り組んでいく必要性を感じる。

今まで小さな子どもと読書の関係はあまり重視されていなかったように思うが、これまでの取り組みの中で、小さい子どものための環境整備や連携が進んだ。その中で親も読書に関わっていくということにつながることを学んだように思う。小さい時の出会いがその後の土台となる。生涯を通して本に関わるということをお大切にしなければいけない。それを考えると子どもが一番本と出会うことができるのは、今は学校である。国の第三次計画にもそのように書かれている。子どもの読書環境には、施設と本と人が必要であり、そのための工夫をしていかなければならない。学校図書館の充実、活性化を図るための具体的な目標などを設定して推進していくことを、この推進会議に期待する。

委員長
委員

非常に熱い思いが伝わった。今後の活動に活かされることと思う。

保護者の立場からの意見を申し上げたい。自分の子どもは1年生と4年生である。学校の本が新しくなると、借りてくる。子ども達は登下校で本の話をして、姉妹で一緒に読んでいるときもあり、本が継承されていると感じる。上の子が下の子に本を紹介したり、読んであげたりすることで本への関心を高めている。本屋にも行きたいとよく言っている。

中学校のコミュニティスクールなどでも実施して、幅広い年齢層の子どもが同じ文化を土壌を作っていくことが大切だなどと思う。同じスポーツに取り組んだりするのと一緒に、相乗効果を狙って取り組んでいけたらと思う。

委員長
委員

ありがとうございました。続いて教育総務課 乾課長お願いします。

子どもの方は教育に必要な施設管理関係を含め、学校運営の中の図書予算措置も含めた予算などを取り扱っている部署になるかと思う。図書の達成率についてもずっと調査してきて、平成24年度末で100%に近いものになっていると確認している。その一方で、学校間によって差もあることも確認できている。

しかし、達成率が達成されたことが読書の推進につながっているとは考えておらず、購入された図書が実際に読まれていることが大切であると考えている。その分は学校の方で取り組んでいただかなければならないと思っている。

最近では情報化が進んできており、紙の図書から離れてきていることも聞いている。情報の収集方法として、紙媒体からの情報とデジタルからの情報と収集手段が多様化している。学校はもちろん、家庭でも情報の収集については子どもたちに教育していかなければならないと思う。そのための施設、設備の充実も図る施策を計画していかなければならないと考えている。

委員長
委員

行政の立場からご意見をいただいた。続いて現場からの意見を聞かせていただく。

これまでの方々のご意見を聞いて、大変責任を感じた。学校の中で図書館の仕事をしている教員は、非常に熱心に取り組んでいる。文字を読むということは昔よりもしていると思う。今の教育現場はプレゼンテーションを作り、表現することに力を入れている面もある。情報を取り入れて、自分の言葉でまとめて、話す活動が増えている。

しかし、紙媒体で読書をするということは減っているように感じる。小学校現場にもいたが、週に1階は図書館に来て、絵本を読んだり、読ませたりし、豊かな心を育てようとしているが、中学校になると、部活動や受験勉強などで読む時間が無くなっている。好きな子は読むが、読まない子はほとんど読まないという二極化も見られる。全く読まないのではなく、

子どもの興味が多様化しており、読書に向かないのが現状である。皆様の期待を聞かせていただいて、読書を大事な柱の一つに据えていかなければならないと感じる。

委員

地域教育課としては、全中学校に地域教育協議会を設置してもらった。地域と学校が連携して子どもを育てる取組をしてもらっている。その一つにボランティアの力を借りて、学校図書館環境の改善に取り組んでもらうことも行っている。ただ、学校と地域との考えがうまくかみ合わずに、なかなか進んでいかない学校もあり、地域によって差が出ている。もっと学校がボランティアの力を活用して活性化してもらえればと思う。うまくいっている学校はボランティアが昼休みに貸出を行い、図書室がにぎわっている報告も聞いている。

委員長

市内にも学校と地域が連携をして取り組んでいるよい例があることをお聞かせいただいた。大学でも同じように良い実践を取り入れていく動きがある。良い実践を取り入れ、アクションを起こすことが大切だ。

委員

教育支援課では、学校図書館支援事業を行っている。専属スタッフが1名おり、市立学校全70校を訪問している。本の修復講習や運営の相談などを行っている。学校の現場に赴くことで、実態把握、情報収集を行い、読書活動の推進に生かすようにしている。ただ、学校巡回だけでは、なかなか推進とまでいかないのので、今後は公立図書館との連携を図りながら、進めていく必要がある。今後は情報共有のシステム化を進めることもビジョンとして持ちながら、子どもたちが少しでも読書に親しむ、読書を通して自分なりの興味のあることを見つけてもらうことを視野に入れて、取り組んでいきたい。読書活動の推進に教育センターとして今後も深めてまいりたい。

委員長

学力向上と読書活動はつながっていると考えている。大学生のレポートでも同じ5枚書いても、思考力や表現力に読書量が関係していると感じる。

委員

自分自身のことを考えても本を読まなくなっていると思っている。読書の重要性はわかっているのだが、なかなか時間がない。生涯学習課では子育て支援等を含めて取り組んでいる。資料編にも参考として挙げさせていただいた。読書は小さいころからの積み上げであると考えている。幼少期の読書が小中学校につながり、興味や趣味になる。そのためには地域の力が大切である。ボランティアの育成なども課題だと考えている。

委員

西部図書館の児童書の貸出を見ると、平成23年度で年間18万冊を貸出している。本年度についても4月から10月末までで約11万冊を貸出している。ほとんど毎月伸びてきている。本館では毎週火曜日、金曜日にふれあい絵本という事業で、絵本に赤ちゃんから親しむということで、申出のあった場合は一人当たり10分程度の読み聞かせを行っている。年間200人程度参加している。第3水曜日、第4水曜日には読み聞かせも行っている。こちらも年間200人程度の参加である。さらに出前おはなし会を実施している。学校数は2校と少ないが年間3回実施している。本年度については1校増える予定である。おはなし会をしてもらう司書を臨時職員として任用しているが、3年という期限のため、育成の面で課題が残る。力をつけたところに任用期間が終わってしまうため。

委員

北部図書館の近隣の学校として小学校7校、中学校2校がエリアになるかと思う。地域によって、読書活動に対する考え方に温度差がある。その温度差をどのように解決するための取組が必要だと感じている。

地域から出前図書館をしてもらえないかという地域もあるが、こちらから同じことを投げかけてもいい返事をもらえない地域もある。この差をなくし、均質にする取組を進めることが大切だと考えている

委員 「奈良市子ども読書活動推進計画」策定時にワーキンググループのメンバーとしても企画に加わらせてもらった。この5年で解説が必要な専門用語が当たり前になっていることから、この5年間の取組の進歩を感じる。

新しい取組、たとえばビブリオバトルなどは高校の司書が詳しいので、高校の取組なども聞かせてもらうのもよいと思う。今回は幼児から中学校までの話が中心になっているが、今後は高校までの取組に広げていくことも考えてよいのではないかなと思う。高校生についての対応について検討していく、もしくは今年度は中学校までを中心に取り組むなど、視点を明らかにして推進していくことが大切だと思う。次の5年間は「学校図書室」ではなく「学校図書館」という言葉を全員が使えるようになるとういと思し、自分も頑張りたいと思う。

委員長 ビブリオバトルとは書評比べのことで大学でも取り入れ始めている。一つの読書指導の方法である。

委員 この4月からこの仕事に関わっている。保育園では幼稚園よりも施設が狭いものの、限られたスペースの中で読書スペースを設けたり、読み聞かせを行ったりしてもらっている。環境という面ではできてきているかなと考えている。

畑野委員の話を受けて、自分の子どものことを考えてみた。大学生の子どもにとって、公共図書館で勉強をしている。図書館の学習スペースを増やしていけば、学習の合間に読書をするというようなことも考えられる。公共図書館に学習スペースを増設することも、読書活動の推進につながるのではないだろうか。

委員 本課では、未就園児の母親を対象に地域の子育て支援拠点事業として、地域の子育て支援センターや子育て支援広場など、子育て支援スポットの実施をしている。スタッフによる講習会の一つとして、遊びの伝授や絵本の読み聞かせを行っている。また、アドバイザーによる子育て支援も行っている。アドバイザーの依頼をもらう時に希望を聞かせてもらうが、絵本の読み聞かせが非常に多くなってきている。乳幼児とお母さんとの本の関わりが大切との意見を先ほどから聞かせてもらっているが、乳幼児とお母さんを本で繋ぐことの重要性を強く感じている。今後は読み聞かせのできるアドバイザーの育成にも力を入れていきたいと思っている。本庁1階にもキッズコーナーを設けている。月二回遊びの講座を行っている。その時のお母さんと子どもが大型絵本を読んでいる様子を見ると、本当に楽しそうに生き生きとしている。こちらの機会も増やしていきたいと考えている。

協力者 奈良市では5年前に行ってはいけない教室が図書室だといわれている学校があったが、その時代から思うと、ずいぶん変わってきたと思う。子どもが変わってきていると同時に、大人も変わってきていると感じる。

読書支援センターのスタッフは今一人なのか？

委員 今は一人である。

協力者 以前は二人いたと思うが、いろいろな事情があって減ったと思うが、二人のときでも奈良市の学校を回るのが大変だったのに、一人ではかなり大変だと思うが、何とかならないのか。奈良市には司書教諭はいるが、司書が入っている学校はどれだけあるのだろうか。司書教諭は担任をしながらなので、図書館の充実に携わる時間がなかなか取れない。専任の職員がつかない奈良市の現状は厳しい。学校図書館があるのに、人がいないために利用できない現状は残念だと思う。元文部科学大臣片山氏が地方交付金を図書館に利用してということがあったが、なかなか難しい現状であった。

文科省のモデル事業について取り組んだ時には、素晴らしい取組であった。しかし事業が終われば、それで終わってしまう。地方自治体の財力面

で終わるのは残念だと思う。公の助成金などにも手を挙げて取り組んでいってもよいのではないかと思う。何らかの形で子ども読書活動推進につなげていけばと思う。

委員長

貴重な意見をたくさん聞かせていただき感謝したい。私の思いとしては、成果と課題に「明日に向けて」として書かせていただいた。読書する町、奈良市、奈良市で読書する基盤を学んだと誇れるような取組を行っていきたいと思う。

成果と課題の（案）をとっていただき、これを5年間の成果と課題にしたい。

司会

最後に副委員長より挨拶をしていただく。

副委員長

いろいろなご意見については、今後検討し、できることから実現していけるようにしていきたい。やはり家庭、地域、学校、そしてあえて言うなら行政とこれらの連携がこれからは大切であると思う。それぞれの役割分担を明確にし、連携をしていくことで、推進されていくと思う。図書館についても、将来的な課題について、行政としての課題、学校としての役割などを明確にし、それぞれが責任を持って行うことが大切であり、あいまいにしてはいけないと考えている。

そのためには、国に対してもものを申していかなければならないと感じた。司書教諭の配置や蔵書の達成率などはその例だ。教育委員会としても、これからしっかりと国や県に要望していき、実現できるように取り組みたいと考えている。学校がキーとなるのは確かであるが、図書館や公民館の整備をきちんとしていくのも大切であり、地域との懸け橋にもつながり、さらには家庭ともつながっていくと考えている。そのためにもそれぞれの役割分担を明確にしていくのも本委員会の役目とも考える。各委員の方々には今後ともご指導をいただきたい。

資 料

- 1 奈良市子ども読書活動推進計画－5年間（平成19年度～平成23年度）の成果と課題－（案）」
- 2 資料編